

### 歴史ある名木を一般公開

3月10日から18日まで、草野町一帯と石橋文化センターを会場に「久留米つばきフェア」が開催され、約4万人が訪れました。

草野町会場では17日と18日限定で、ツバキの古木がある個人の庭を一般開放しました。今村哲朗邸では、久留米つばきの代表的品種「正義」の、樹齢300年を超える名木を公開。杉山麻美さん(筑紫野市)は、「見事なツバキですね。花の一つ一つに歴史と力強さを感じます」と話しました。



今村哲朗邸で「正義」に見入る来園者

### 激坂を自転車で力走

#### ❖久留米つばきカップ

発心公園から耳納連山の急坂3.7kmを自転車で駆け上がる「久留米つばきカップ」T.I.N.草野」が、3月18日に開かれました。県内外から、13歳から67歳までの男女105人が参加しタイムを競いました。

個人優勝したのは、28歳の会社員檜室建斗さん(大阪市)。昨年の優勝者より1分近く早い好タイムでした。「途中でやめたいと思うほど過酷でしたが、優勝できてうれしい」と笑顔で話しました。



スタートしてすぐに始まる激しい傾斜の坂道で、懸命にペダルをこぐ参加者

### 伝統の久留米絣をPR

#### ❖愛・藍・で逢いフェスティバル

3月17日と18日に、地場産くるめで「藍・愛・で逢いフェスティバル」が開かれました。

26社が服や反物、小物などの絣製品の販売ブースを出店。新作発表会では、手織り、機械織り、絣2次製品の3部門、約130点が展示されました。その他、手織り体験教室や絣のファッションショーなどが開かれ、久留米絣の魅力をアピールしました。



藍染めの着物の他、ワンピースやドレスなど、さまざまな衣装を披露



来場者にアスパラガスの天ぷらの試食を勧める出店者

### 新鮮な野菜がずらり

#### ❖キラリ農産物マルシェ

3月20日、ゆめタウン久留米で「キラリ久留米農産物マルシェ」が開かれました。

県内1位の農業都市・久留米の農産物の良さを知ってもらうために、市農産物販売力強化推進協議会が主催。野菜や果物の試食や販売、農産物の詰め合わせが当たる抽選会などが行われました。橋本和子さん(東合川新町)は、「エノキとシメジを試食しました。食感で新鮮さが分かりますね」と話しました。

## 市政の動き

### Wi-Fiのエリア拡大で新たな人の流れを呼び込む



新たに公衆無線LANのサービス提供エリアに加わった高良大社

久留米市は、4月1日から、公衆無線LAN(Wi-Fi)の提供エリアを拡大します。

これまでのJR久留米駅から西鉄久留米駅までの市中心部に加え、久留米市美術館周辺や高良大社などの観光スポット、耳納北麓の観光拠点となる田主丸ふるさと会館でもサービスを開始します。

また、福岡市と連携し、どちらかで一度利用登録すれば、両市のサービスが利用できるようになります。

誰でも公衆無線LANを使ってインターネットに接続し、情報を得られます。エリアが広がったことで、外国人を含む観光客の利便性が高まり、市内の観光地を巡りやすくなります。今後も、エリア拡大を進め、新たな人の流れを呼び込み、観光振興や地域活性化などにつなげていきます。

☎情報政策課(0942・30・9060、FAX0942・30・9708)

### 地域おこし協力隊カフェをオープン

3月17日、城島町の魅力発信を担う地域おこし協力隊員の宗司さんが、カフェ「UNI」をオープンしました。同町浮島の空き家を活用。内装やカウンター、テーブルなどは自作しました。

「まだ未完成。一緒に造り上げることで、みんなの居場所になって欲しい」と宗さんは話します。2月には、特産品の販売サイト「あしたの城島」を設立。さまざまな方法で城島町の活性化に取り組んでいます。

☎城島総合支所地域振興課(0942・62・2111、FAX0942・62・3732)



オープン初日には近所の住民が訪れ、雰囲気を楽しんでいました

### 台北つじ祭りでトップセールス

3月20日と21日、大久保勉市長が台北市を訪問。台北ツジフェスティバルに参加しました。

昨年10月、久留米市が経済交流調査団を派遣した際、両市の花がツジという点で、交流を深めたいと台北市から申し出があり、トップセールスが実現しました。大久保市長は記者会見で「台北の皆さんに、ツジが咲き誇るまちの風景とおいしい食を味わいたい」とPRしました。

☎観光・国際課(0942・30・9137、FAX0942・30・9707)



現地担当者に案内されて祭りの会場を散策する大久保市長